



編：Yくん、突然ですが問題です。

Y：何ですか、急に・・・こんなところで問題を出して、恥をかかせようという魂胆ですか？

編：イヤイヤ、そんなことはない。ちょっと確かめてみたかったのじゃ。

きみは「けいじ」という漢字が書けるかな。犯罪の捜査や犯人の逮捕を仕事とする、あの「けいじ」のことだ。

Y：編集長！バカにしてはいけませんよ。そんなの書けるに決まってるじゃないですか。

編：よかろう！では第2問。つぎは少しハードルが高いぞ。「けいさつ」は書けるかな？

Y：簡単ですよ、ほら。

編：では、最後に第3問、これはかなりのハイレベルだ。「さぎ」という漢字が書けるかな？

たくみにいつわって金品をだまし取ったり、相手に損害を与えたりする、あの「さぎ」のことだ。

Y：う～ん、これはちょっとむずかしい。

編：よし、では正解じゃ。「けいじ」は【刑事】 「けいさつ」は【警察】

「さぎ」は【詐欺】と書く。みんなできたかな？

Y：編集長、なんでこんなこと聞くんですか。

編：じつは・・・

東京都府中市で事件がおきた。21歳の男が、90歳の男性からキャッシュカードをだまし取るという事件がおきた。もちろん21歳の男はすぐに逮捕された。

男の正体が見破られたきっかけは、漢字だったそうだ。

Y：漢字・・・□☆△＞？・・・どうということですか？

編：男は刑事のふりをしていたらしいが、連絡先として渡してきたメモは誤字だらけ。

「刑事」は「形事」・・・「警察」は「経察」と書いたそうだから驚きだ。

「特殊詐欺防犯係」の「詐欺」という字も書けなかったらしい。

Y：へえ～ そんなアホなヤツもいるんですね。

編：ちょっとまった。キミも「さぎ」は書けなかったじゃないか！

Y：それはですけど・・・でもボクはキャッシュカードをだまし取ったりしませんよ。

編：あたりまえだ！。そんなことを言っているのではない。社会生活を営むうえで常識となる漢字は、書けなければ何もできないということがいいいのだ。犯罪をすすめているわけではないが、泥棒ひとつをするにしても、漢字が書けなければいけないということなのじゃ。90歳の男性は不審に思って通報したというが、それはそうだろう。自分の職業や肩書をきちんと書けない人などいない。90歳の眼力は確かだということだ。

Y：なるほど、何をするにしても知識は必要ですね。

妙な人間が訪ねてきたら、まずは漢字の書き取りテストをやらさなければ・・・

